

『女性消防士としてできること』

四條畷署 救急隊 消防士 上川 優香（平成26年入職）

救急救命士を選択した理由

自分の将来を考えたとき、「看護師になること」と「救急救命士になること」に迷う自分がありました。迷いの中で「助けを求めている人のもとへ一番はじめに駆けつけたい！」と強く思う自分に気づき、救急救命士を選択しました。そして、その資格を最大限に活かすことができる消防士を目指しました。



現在は、目標であった救急救命士として救急現場の最前線で仕事をしています。

辛く苦しい日々の中で

救急救命士として採用された私にとって、消防士という職場は幸せを感じることができる場所ではなく、時に目の前で心臓が止まり人の死と直面することもあり、辛く苦しい場所です。しかし、その都度、救急救命士としての責任の重さを強く感じ、どのような事案であってもその人やその大切な人の重要な局面に携わっているということを大切にしています。重要な場面では、消防学校での厳しい訓練や先輩方の指導が励みになっています。



人の命を救うことは簡単ではなく、一人の力では助けることは難しいと感じることもあります。しかし、多くの人に支えらながら、すべては「市民の安心のため！」を心がけ、日々精進しています。

市民の安心のために



男性職員が圧倒的に多い消防職場で、やはり男性と比較すると劣ってしまう部分があり、自分の存在意義に疑問を感じる日もありました。しかし、ある救急現場で市民の方から「女性消防士がいてくれてよかった。」と声をかけていただきました。とても嬉しく感じたと同時に「女性にしかできないこと」、「私にしかできないこと」もあると実感できました。

大東畷消防を目指している皆さん！消防の仕事はやりがいがあり、また皆さんにしかできないことが必ずあると思います。

是非、一緒に頑張りましょう！